

## 第2学年 国語科学習指導案

場 所 大会議室

児 童 男17名 女16名 計33名

指導者 八重樫陽子

### 1 単元名

組み立てを考えて書こう「緑が丘のまちのおもしろいもの見つけたよ」(光村図書2年上)

### 2 児童について

児童は、書くことの前単元「かんさつ名人になろう」で、生活科で育てている野菜の様子について、大きさや形、色などを丁寧に観察し、気付いたことを詳しく書く学習をした。この学習を通して、観察する対象をよく見て、書くための材料を集めることができるようになってきている。しかし、より多くの情報の中から、伝えたい中心を決めて書く事柄を選んだり、順序を考えたりする学習経験は少ない。

そこで、自分が一番伝えたいことを明確にして書く事柄を選択することや、順序をよく考えて構成の工夫をすることの学習を通して、読み手により分かりやすい紹介文を書くことができるようにしていく必要がある。

### 3 単元の指導構想

#### (1) 単元について

本単元は、新学習指導要領の「B書くこと」第1学年及び第2学年の内容(1)イ「自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること」、ウ「語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりがわかるように書き表し方を工夫すること」、オ「文章に対する感想を伝えあい、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること」を受けて設定してある。

生活科の探検を通して見つけた、その店の特別なものを「おもしろさ」と捉える。本単元は、そのおもしろさを、自分とは違うコースに探検に行った友達に伝えたいという思いをもって学習を進めることができる単元である。探検をして見たり聞いたりした事柄を友達に伝えるためには、書く事柄を選び、順序を考える必要がある。それらのよさに気づき、構成をよく考えて文章を書くことに適している。

本単元では、生活科のまち探検で見つけたお店のおもしろさを、学級の友達によく伝わるように、伝えたいこととなる事柄を選び、順序を考えて紹介文を書くことができるように指導していく。

#### (2) 指導にあたって

児童の深い学びの姿を次のように捉え、その実現に向けて、以下のような手立てをとる。

##### 〈育てたい資質・能力〉

- かぎの使い方や聞いたことを表す文末表現を理解して文や文章の中で使うことができる。

【知・技】

- 緑が丘のまちのおもしろさが友達に伝わるように、書く事柄を選択し、順序を考えて構成することができる。

【思・判・表】

- 読み手により分かりやすく伝えて書こうとしている。

【学】

##### 〈深い学びの姿〉

- まち探検で見つけたお店のおもしろさについて、自分が一番伝えたいことを明確にし、紹介文に書く事柄を選択したり、順序を考えたりしながら書く姿

#### 視点1 深い学びを実現する単元構成

- 生活科のまち探検と関連させた単元を構成することで、相手意識や目的意識を明確にし、「自分で書いて知らせたい」という思いを大事にして紹介文を書くことができるようにする。
- 単元の終末では、出来上がった紹介文を互いに読み合い、感想を交流し合うことで、満足感や成

就感をもつことができるようにする。

## 視点2 問題解決的な学習展開の充実

### (1) 主体的な学びを促す手立て

- 単元の導入で、自分が見付けたおもしろいものを「友達に詳しく教えたい」「他のグループのことも聞いてみたい」という児童の思いを全体で共有し、その思いが単元を通して発展的につながっていくように掲示を工夫することで、単元を通して書く意欲を持続できるようにする。

(主①)

- 学習前の自分と比べてできるようになったことや、次の学習でやりたいことの観点で書いた振り返りをもとに次の学習課題を設定することで、児童にとって必要感のある課題設定と言語活動の見直しを行うことができるようにする。(主②)

### (2) 対話的な学びを促す手立て

- 書く事柄を選び、順序を考える場面において、順序、内容のまとまりとその理由を問う発問をすることにより、児童が選択するよさや順序を考えるよさに気付くことができるようにする。また、選択のよさや順序を考えるよさを板書に位置付けることで、自分が構成する際にも、根拠をもって書く事柄を選んだり順序を考えたりすることができるようにする。(対①)
- 書く事柄を選び、順序を考える場面で、自分が考えた構成とその理由を友達に説明する時間を設定することで、児童が自分の考えを明確にしたり、さらによいものへと考えを広げたりすることができるようにする。(対②)

## 4 単元の指導計画

### (1) 目標

- かぎの使い方や文末表現によって聞いたことを表すことができる。【知・技】
- 緑が丘のまちのおもしろさが友達に伝わるように、書く事柄を選択したり、順序を考えたりして文章を書くことができる。【思・判・表】
- 必要な事柄を選択したり、順序を考えたりするよさに気付いて文章を書こうとしている。【態】

### (2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① かぎを正しく使ったり、文末表現を工夫したりすることによって、聞いたことを表している。	① 探検で見付けたおもしろいものの中から、自分が一番伝えたいことと伝えたいことに合った事柄を選択したり、順序を考えたりして書いている。	① 友達に見付けたおもしろさを伝えるために、必要な事柄を選択したり、順序を考えたりするよさに気付いて文章を書いている。

### (3) 指導計画（7時間）

#### 【重点とする見方・考え方】

- 自分が伝えたいことを相手に分かってもらうために、「はじめ—中—おわり」の構成に沿って、伝えたい内容を選んだり配置する順序を考えたりすること。

段階	時間	主な学習活動	指導の手立て	評価規準（評価方法）
		【生活科との関連】 探検①「みどりがおかのまちをあるこう」まち全体の探検 探検②「みどりがおかのおもしろいものをさがそう」グループごとの店探検1回目		
第一 次	1	○ 学習計画を立てる。	・ まち探検で見つけたおもしろさを他のグループの友達に伝えたいという思いやこれから学習していきたいことを全体で確かめることで、学習の見直しをもって単元を進	・ 友達に見付けたおもしろさを伝えるための学習の見直しをもっている。【態①→振り返り】

			めることができるようにする。 (主①)	
第二次	2	○ まち探検で見つけたおもしろいものを付箋にメモする。 ○ メモを比べて、自分が一番伝えたいことを選ぶ。	・ 教師のメモをモデルとして書き方を確かめることで、付箋紙1枚に1つの事柄を書くことができるようにする。 ・ 「なぜ伝えたいのか」を問う発問をすることで、自分が一番伝えたいことを選ぶことができるようにする。	・ 探検で見つけたそれぞれの店のおもしろさの中から、一番伝えたいことを考えて選んでいる。【思①→ワークシート】
	【生活科との関連】 探検③「みどりがおかのおもしろいものをさがそう」グループごとの店探検2回目			
第二次	3	○ 2回目の探検で見たことや聞いたことをもとにして、書きたいことの中心をふくらませた詳しいメモを書く。	・ 見たことや聞いたことを短冊1枚に1つ書くことを確かめることで、次時の組み立ての際にメモの短冊を動かして組み立てを考えることができるようにする。	・ 伝えたいことの中心に合うように、見たことや聞いたことを短冊に書いている。【思①→ワークシート・短冊】
	4	○ メモを比べながら必要な事柄を選択し、構成の検討をする。 (本時)	・ 書く事柄を選んだり、順序を考えたりする場面において、順序とその理由を問う発問をすることにより、児童が選択するよさや構成を工夫するよさに気付くことができるようにする。 (対①) ・ 自分が考えた順序とその理由の視点を設定し交流する時間を設定することにより、自分の考えをより確かなものにしたたり、自分の考えを広げたりすることができるようにする。 (対②)	・ 自分が伝えたいことを明確にし、順序を考えながら構成をしている。 【思①→ワークシート】
	5	○ 組み立てメモをもとに文章に書く。	・ モデル文を使って聞いたことを表す表現の仕方について確かめることで、聞いたことを正しく書き表すことができるようにする。	・ かぎを使ったり、文末表現を工夫したりすることで、聞いたことを書き表している。【知①→紹介文】
	6	○ 自分の書いた文章を読み直して、推敲する。	・ 丸、点、かぎが正しく使われているモデルを示すことで、自分の書いた紹介文を読み直すことができるようにする。	・ 句読点やかぎを正しく使って紹介文を書いている。【知①→紹介文】
第三次	7	○ 友だちの紹介文を読んで、初めて知ったことやわかりやすかったところを交流する。	・ ペアで読み合う際には、違うグループの友達と交流できるようにペアリングを工夫する。	・ 友達の書いた紹介文のよさを見付けながら読んでいる。【態①→ワークシート】

## 5 本時の指導計画

### (1) 目標

- ・ 探検に行ったお店について伝えたいことを明確にし、順序を考えて構成することができる。(思・判・表)

### (2) 評価規準

おおむね満足	努力を要する児童への支援
探検に行ったお店についての自分のメモを比べて読み手に伝えたいことを明確にし、見たこと、聞いたことの順序で、読み手にわかりやすくなるように構成を考えている。	児童との対話を通して、自分が一番伝えたいことは何かを確かめることができるようにする。また、メモの内容から、見たことと聞いたことの種類を一緒に行うことを通して、どの順序で構成するかを考えることができるようにする。

(3)展開 (主) 主体的な学びを促す手立て・(対) 対話的な学びを促す手立て

段階	主な学習活動・学習内容	教師の支援 (◇評価)	資料等
導入 (3分)	<p>1 前時の振り返りをもとに、課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>お店のおもしろいものが伝わるように、メモの組み立てを考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の振り返りの中から、メモの順序について触れているものを取り上げて課題を設定することで、見通しをもって学習することができるようにする。(主)</li> </ul>	
展開 (35分)	<p>2 本時の学習の流れを確かめる。</p> <p>① 先生のモデルメモを選び、並べる。</p> <p>② 自分のメモを選び、並べる。</p> <p>③ 同じ店に行った友だちに自分の考えを教える。</p> <p>3 教師のモデルから、どのような順序でメモを構成するか考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>「はじめ」「中」「おわり」でメモを組み立てること。</li> <li>「はじめ」には、題名に関わる事柄を選ぶこと。</li> <li>「中」には、見たこと、聞いたことの順序で組み立てをすること。</li> <li>「おわり」には、みんなが行ってみたいくなるようなまとめの言葉を書くこと。</li> </ul> </div> <p>4 自分のメモの組み立てを考える。</p> <p>5 友達に自分の組み立てを教え、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを友達に聞いてもらって、「見たことと聞いたことの順序になっているね。」と言ってもらってこれでいいんだなと思いました。</li> <li>自分ではどの順番にしようか迷っていたけれど、友達にアドバイスしてもらって順序が決まりました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で組み立てを考えたら、同じ店に行った友達に教えて交流したい、という児童の思いを引き出しながら、学習の見通しをもつことができるようにする。</li> <li>それぞれの付箋の内容を「見たこと」「聞いたこと」に分類することによって組み立てる時の手がかりとなるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>「見たこと・聞いたことの事柄が合うメモはどれか」の発問をすることで、見たこと・聞いたことの順で構成すると読み手にわかりやすいことに気付くことができるようにする。(対)</li> </ul> </div> <p>◇自分が伝えたいことを明確にし、順序を考えながら構成をしている。(思・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同じ店に探検に行った児童同士をペアにすることで、自分の組み立てと比べたり互いにアドバイスしたりできるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>「どのような順序で組み立てたか」「その順序で組み立てたわけ」の2つの視点を設定し、交流をすることにより、自分の考えをより確かなものにしたり、自分の考えを広げたりすることができるようにする。(対)</li> </ul> </div>	<p>教師のモデルメモ</p> <p>ワークシート</p>
まとめ (7分)	<p>6 学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>はじめは、どんな順序にするかわからなかったけれど、見たこと・聞いたことの順で組み立てられるようになりました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時できるようになったことや、次の学習でやりたいことの観点を示すことで、付いた力を自覚したり次時の学習課題を設定したりすることができるようにする。(主)</li> </ul>	

